

「加賀家文書」の調査研究から～その 34 史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録から十一～



野付半島での農耕の記録を見る。

安政5年(1858)5月23日

「子モロにて元締様より被仰付候事」の中に「一 何種にて品々注文可致候事」として、種物を注文した記録があります。その種類は(カッコ内は数量)

「裸麦(貳升)、藍(三合)《あい、青色の染料に使う草》、紅花(五合)《こうか、べにばな、種子から油を採り、若葉は食用にする》、麻糸(壹升)《あさいと、麻・亜麻などの繊維から製した糸の総称》、大豆・小豆(三合ツ)、かぼちや(百粒)、木瓜種(五勺)《きゅうり、勺・しゃくは地積の単位で、一合の十分の一》、西瓜(五勺)、夏大根(壹合)、秋大根(五合)、たばこ・なんばん(紙包みにしてこの位・絵あり)メ」となっています。

続いて「ラン子ニクル 午年作物献上之品々」として「大麦・粉麦・黒ささぎ・手なしささぎ・麻糸《麻糸は麻で作った糸なので、麻を乾燥した物なのか》・藍玉《藍草の葉を発酵させたものを丸く固めた染料》・紅花玉餅・たばこ葉・栗・ひゑ・くわ メ」となっており、ラン子ニクルの畑で作った作物を献上した記録があります。

また、同年 7月17日「ラン子ニクル麦刈蒔物 草とり今日〇〇なし」、18日「ラン子ニクル麦蒔 ウエンヘツ〇〇三人〇〇」と麦蒔きのなどの様子も記録されています。

この年の伝蔵の主な動向を『日記』から見ると、

1. 3月12日 箱館奉行竹内保徳が「箱館丸」で品川を出航し、同月23日に箱館に着任しています。
2. 5月1日 松浦武二郎様ノツケ着(子モロから陣平の「板綴り舟」を借りてヘツカイまでの予定でしたが、しばらく使ってなかったのが、「アカ」(海水が隙間から入り)が入り、手間どり、フウレン湖の入口のトウト(遠太)までしかこれなく番屋に泊り、翌日、伝蔵が出迎えに行っていたヘツカイから、伝蔵も同船して、無事ノツケへ到着しました。)
3. 5月2日 御逗留、船乗換え支度(陣平から借りた「板綴り舟」では都合が悪いので、漁船の中から小さい船を用意しました。)
4. 5月3日 松浦様出船、コエトエ引越(ノツケから湾内の最短距離を航行し、茶志骨川を遡り、コエトイ「時化の時(東風)などは、外海の浪が陸地を越える」「川から外海までの距離は200メートル」で、乗ってきた舟から荷物を降ろし、陸地にコロ(ゴロ・ゴロ太)を敷き、その上を舟を引いて外海へ出ます。そして、シヘツへ、ここでは、武佐のアイヌの案内で、標津川を遡り、カンチウシまで探検・調査をしました。戻って、又、シレトコをよく知っているアイヌの案内で、外海を航海し、知床半島の先端に泊って、斜里・宗谷へ向かいました。)
5. 5月6日 エトロフ廻り馬 四頭 出帆
6. 5月9日 近藤様井上元長様到着(種痘医師・国後、択捉へ向かったようです。択捉で箱館奉行に会っています。)
7. 5月14日 松浦様シレトコより御手紙到来(この手紙の原本は、「加賀家文書館」で所蔵)
8. 5月15日 子モロより伝蔵呼出し之手紙到来
9. 5月16日 アツウシヘツへ出役
10. 5月19日 支配人代いたしヲエナウシまで御奉行様御出迎え
11. 5月20日 子モロ到着
12. 6月29日 支配人・文作・私・土人平蔵、アツケシへ出立
13. 7月4日 アツケシ着
14. 7月10日 子モロ無事着
15. 8月に入り、種痘御用、8日まで(メナシ地方)
16. 8月12日 奥村様御出迎えとして、ツライワッタラ登山 13日休足
17. ケ子カ境まで金井様・名取様・鉄蔵殿・私・専太郎・平作共々 吉作様 巻ずし持参 罷り出るクスリより柴田弁一郎様参る。
18. 8月15日 シヘツ着(陸路ボンニタイから御乗船「大人数なので五艘の船、近くに潮切(濤)があるので」このコースを選んだようです。)
19. 8月16日 ノツケへ夜に着く。(昼食は湾内の船の上で、)17日 御逗留。(食事の献立表によれば、麦の出来がよかったので、「麦飯と地場の産物」を召し上がっていただいたようです。)

20. 8月18日 「ノツケ止宿守伝蔵へ、場処御趣意に叶褒美として百疋を頂戴する。小雨にて御出船致し、間もなく大雨で、ヘツカイにて御止宿す。(ヘツカイアイヌの仁助が、「ニシベツ川のことで」付添の役人へ直訴する)
21. 8月19日 アツウシベツへ下着
22. 8月20日 ノツケより船で、「漂流人17人到来に付、同日見合いたし」(「根室ノツケのイキタラウシに異国船来航し、我国の漂流民16人を上陸させた後、去る」『北海道史年表3月20日』とあるが、同じ方々なのかは調査中)
23. 8月22日 橋本様御出迎え、アツウシベツへ
24. 8月24日 コタンコアンベツまで御出迎え、
8月25日 雨降 トウフトにて泊り
8月26日 子モロ着す。同28日 トウフト
8月29日 ノツケへ、「子モロから徳右衛門・幸吉を畑掛りとして借り、近藤様より鎮六をお借りした。」

こんな多忙な仕事の合間に、「ラン子ニクル・ポンニクル」の開墾をし、耕作、種蒔き、草取り、収穫をしたのでしょうか。

安政5年と思われる『日記』の中の記録を見ると、

3月19日 「御用所御窺其節近藤様より岡稲(陸稲)種物頂戴」

4月朔日 「ラン子ニクル開墾として、和人貳人、シベツより土人貳人、チャシコツ貳人、サキムイより壹人、止宿より茶右衛門・仁八・三郎兵衛・留吉・喜市・倉二郎都合12人にて取り掛かり(人数不整合)

2日3日4日5日6日7日 止宿所へ入用之品調ひとして参る。8日 帰り、

9日 「諸品種おろし」と記されていて、チャシコツ・シベツ・サキムイ・クン子ベツ・ポニライ・ポロモシリのアイヌが開墾にあたったことがわかります。

9日に蒔いた種は、「あえ・たはこ・去秋蒔麦・なんばん・かぶ・南部大豆・なすび・大麦・小麦・秋田大豆・志そう(しそ)・カボチャ・五升いも・秋田栗・ねぎ・長いも・麻糸・油・ゆり・三ツ葉・夏大根・にら・西瓜・きみ・陸稲(陸稲)・味瓜・ひえ・黒さゝぎ・手なしさゝぎ・木瓜・朝顔 右之品々種蒔申候」のようです。

『日記ノツケ伝蔵』以外の「加賀家文書」にも、「ノツケでの農耕」の記録は残されています。(以下、来月号に続きます。)(調査員 戸田峯雄)

郷土資料館ウィンタースクールのお知らせ!

～「冬を楽しむ! 昔の遊びと自然観察」～

●第1回目

と き 平成21年1月15日(木) 午前9時30分～12時

ところ 別海町郷土資料館

内 容 昔の遊び「凧づくりに挑戦しよう」

●第2回目

と き 平成21年1月16日(金) 午前9時30分～12時

ところ 別海町郷土資料館・風蓮湖

内 容 自然観察 「冬の王者 オジロワシ・オオワシを見よう」

対象者及び募集人員

●小学生以上 先着10名

●平成21年1月7日(水) 受付開始です。

※ 電話・FAX・メールにてお名前、電話番号、学年をお知らせください。

※ 参加料は無料です。

別海町郷土資料館だより No.113

発行日 平成20年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

先日の遺跡めぐりは、天候も良くすんだ青空の下、開催されました。約千年前の竪穴住居跡がはっきりと確認出来るこの地方特有の風景に参加者は驚いていました。私も何度見ても新鮮というか感動します。一見ただの穴ですが、歴史が凝縮されています。(石渡)